

# 地域での管理栄養士の存在意義を さまざまな視点から検証

7月16日(土)、大阪樟蔭女子大学にて「第3回管理栄養士と開業医がコラボする会」が会場＆オンラインのハイブリッドで開催された。地域における、活発な議論が交わされた。あり方について、活発な議論が交わされた。



松若良介氏、井尻吉信氏を司会に、登壇者らによるフリーディスカッションも行われた



オンラインで参加・講演した幣憲一郎氏



発起人である井尻吉信氏 発起人代表を務める松若良介氏

## 診療所での栄養ケアの効果を 事例を紹介しながら報告

医療法人松若医院院長の松若良介氏、管理栄養士で大阪樟蔭女子大学健康栄養学部健康栄養学科教授の井尻吉信氏が発起人を務める「第3回管理栄養士と開業医がコラボする会」が7月16日、会場とオンラインのハイブリッドで開催された。当日、会場である大阪樟蔭女子大学には管理栄養士、医師、歯科医師ら約30人が集まった。

地域包括ケアシステムの構築において、在宅患者の栄養管理は課題の1つであり、近年の診療報酬改定に伴い、管理栄養士の活躍の場が広がりつつある。こうした現状から、両氏は診療所における栄養食事指導がもたらす治療効果や、経営の安定化の観点から、かかりつけ管理栄養士の存在意義を周知させることを目的に、2019年に同会を発足。現在までにさまざまな活動を通じて管理栄養士と開業医が協働することの重要

性を啓発し続けている。

3回目となった今回は、特別講演、一般講演、フリーディスカッションの3部構成で進化した。

特別講演では京都大学医学部附属病院疾患栄養治療部副部長の幣憲一郎氏が、「病院と地域で共有すべき栄養管理情報をシームレスに引き継ぐには！」をテーマにオンラインで登壇。幣氏はコロナ禍で栄養食事指導環境が変化している現状を伝えながら、「従来の対面式から、各種情報通信機器を用いた栄養食事指導の形を模索する時期にきている。病院から在宅へのシームレスな栄養支援体制を整備するにはICTの活用が鍵となる」と述べた。

一般講演では整形外科クリニック、歯科クリニックに勤務している2人の管理栄養士からそれぞれ活動紹介が行われた。

現在、紹介のあった整形外科クリニックでの栄養食事指導実施率は2・5%と極めて少ないが、サルコペニアに該当する通院患者に管理栄養士が介入して栄養食事指導を継続的に実施したところ、測定結果の一部に改善効果が認められたという。

歯科クリニックにおける訪問診療では、通院する患者に比べて複数の慢性疾患を有する患者が多く、今回は医療的ケア児を支援する小児在宅訪問管理栄養士の取り組みが報告された。

フリーディスカッションでは、オンライン参加者(約20人)からもさまざまな質問や意見が飛び交った。「管理栄養士が栄養業務以外に受付や診療補助などを兼任することでコミュニケーション力が高まり、患者満足度の向上も期待できる」「内科以外の診療科でも栄養指導の潜在ニーズは高く、診療所の付加価値にもつながる」等、活発な議論が行われた。



多くの刺激を受け笑顔が浮かべる参加者ら

※イベントはマスクを着用して行われました



管理栄養士と開業医が  
コラボする会ホームページ